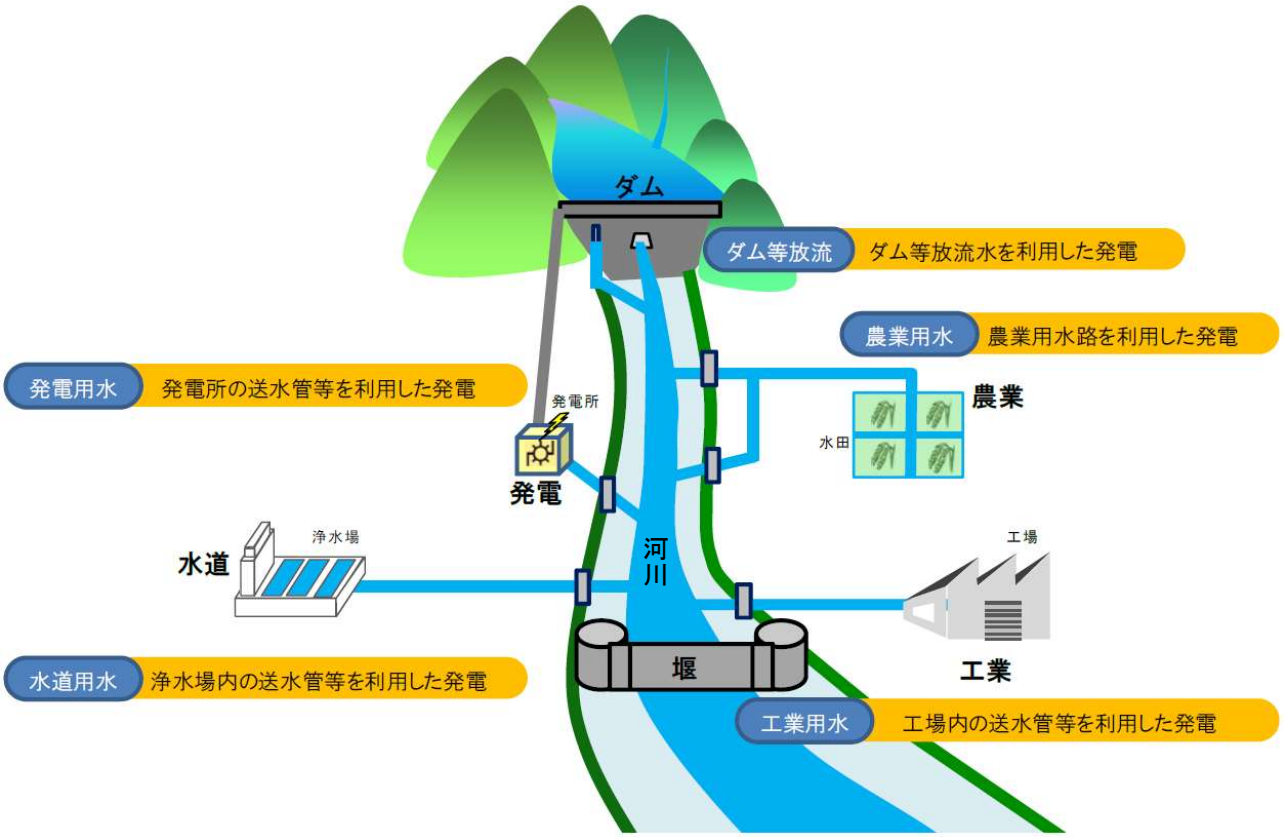
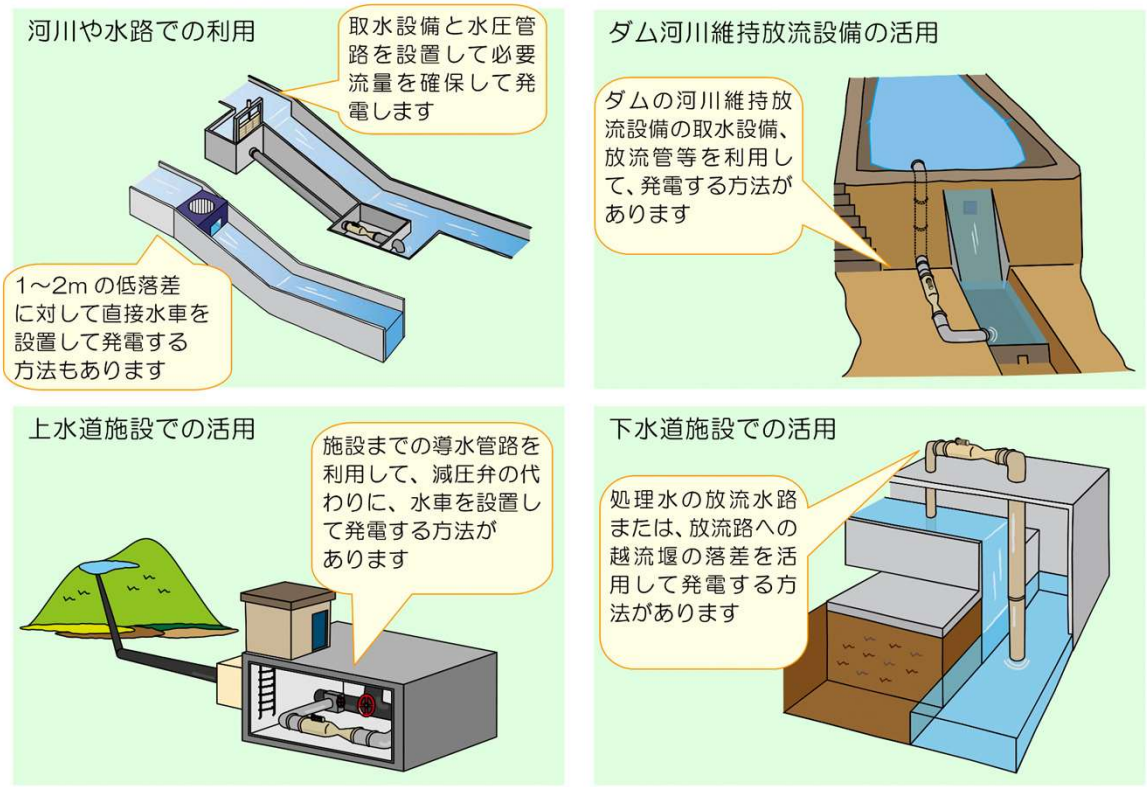
2．小水力発電導入可能箇所

小水力発電で利用する水資源は、渓流（河川）水、農業用水、上下水道、工場・ビルなどの循環水が考えられます。
小水力発電の基本構成は大きく変わりませんが、利用形態により設備に違いが生じるほか、既存設備の活用により、一部設備を省略できる可能性があります。



出典：「小水力発電を行うための水利使用の登録申請ガイドブック」国土交通省



出典：「中小水力発電導入の手引き」北海道経済部

2．小水力発電導入可能箇所

①河川

②ダム

③河川維持用水（ダム、堰）

④砂防えん堤

⑤発電所放流水

⑥用水路

⑦上水道施設

⑧下水処理施設

⑨工場・ビル循環水

落差と水量について

　落差、水量ともに大きい方がよりたくさん発電できますが、水量が多くなると水車自体も大きくなり、導入コストが増大します。
　それに対して、落差を大きくする場合は、水車発電機などの施設はそれほど大きくせずに済むため導入コストの増大を抑えられます。
　また、落差は水量とは異なり季節や天候によって左右されないメリットがありますので、場所を探す際は、特に落差に注目することが重要です。